The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	新年のごあいさつ
Author(s)	笹井, 康典; 相良, 武彦; 武市, 秀雄 他
Citation	makoto. 2011, 153, p. 2-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/85714
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

新年のごあいさつ

大阪府健康医療部長

笹　井　康　典

新年あけましておめでとうございます。

財団法人大阪防疫協会の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げますとともに、日頃から本府の健康医療行政に対して格別のご支援、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、平成21年に流行した新型インフルエンザ（A/H1N1pdm2009）は、この春にも季節性インフルエンザの対応に切り替わることを政府は発表しています。

本府としては、インフルエンザの発生動向の把握に引き続き取り組むなど、油断なく対策を講じるとともに、今回の新型インフルエンザ対策の検証を行い、国への要望も行ったところです。

強毒性の鳥インフルエンザ（H5N1）が、ヒトからヒトへの感染力を得る変異も危惧されており、新型インフルエンザへの備えを引き続き推進し、死亡や重症化を防ぐための医療体制の整備など全力を尽してまいります。

一方、ノロウイルス感染の集団発生が多数報告されていることに加え、蚊を媒介とするデング熱の世界的な流行地域の拡大や新たな多剤耐性菌の国内での検出もあり、海外からの持ち込み事例も増えることが十分に予想できます。

感染症の予防とまん延防止など公衆衛生に対する府民の関心はかつてなく高まっていると言えるでしょう。

貴協会におかれましては、国有ワクチンの供給など本府と密接に連携していただいているところでありますが、今後もご支援・ご理解を賜りますとともに、これまでのワクチン供給、消毒等の公衆衛生における豊富なノウハウと高度な技術をいかんなく発揮されることを大いに期待しております。

結びに貴協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈りいたしまして新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

財団法人　大阪防疫協会

理事長 相　良　武　彦

新年あけましておめでとうございます。皆様方にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は何かとお力添えをいただきありがとうございました。本年も変わらずご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年のわが国の経済情勢ですが、景気回復の実感はないものの、大企業の業績に見る限り、エコポイント制度、エコカー補助金等の景気対策、及びアジアへの好調な輸出に支えられ、その回復ぶりには目を見張るものがありました。ところが、何故か、株価はその好業績に連動せず、日経平均株価の低迷は長く続き、全く力強さを欠く展開に終始しました。その結果、他国に比べ大いに出遅れているのが現状です。株価は先を見るとか言います。しからば、この現象はわが国の将来を暗示しているのかもしれません。私ながら感じた事は、少なくも、わが国は、かつてのような地球環境の破壊を伴う大量消費の高度経済成長の時代には戻らない、そして、もう既に低成長の時代に入っているのではないかという事です。いよいよわが国も成熟国家への仲間入りを果たしたのではないでしょうか。

この低成長の時代にあっては、我々個人、一家が、無駄のない賢い消費生活を送らねばなりません。それが全体となり、国の健全な財政にも繋がって行くと思われます。それには、まずなによりも健康に留意する事が肝心です。というのも、病気に罹れば個人はもちろん国にとっても医療費として、非常に経済的負担となるからです。そのため、生活習慣病を防ぐ努力は言わずもがな、ワクチンにより予防可能な感染症には積極的に取り組む姿勢がぜひ必要です。ワクチンの供給に携わる当協会としましても、その一助を担えれば幸甚に思います。

新公益法人制度が施行され、既に二年以上が経過しましたが、移行実績、申請件数ともに低調と聞いております。

しかし、期限まで三年を切った今、当協会は速やかに一般財団法人への移行をめざし、準備に鋭意努力中です。どうぞ重ねてのご支援よろしくお願いいたします。

今年が皆様方にとりましてより良い年になりますことを祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

大阪市健康福祉局
健康推進部長
武　市　秀　雄

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様方には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は、本市健康福祉行政の推進に格段のご理解ご協力を賜り心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、全国的に平均気温が上昇し、大阪では９月までの猛暑日が観測史上最多日数となり、多数の方が熱中症により救急搬送されるなどの健康被害が発生しました。また、国内各地では、記録的な集中豪雨により、浸水被害だけでなく多くの人命が失われる痛ましい天災も発生しました。

これらの現象の一因として、多くの有識者が、温暖化を始めとする地球規模での気候変動による影響を指摘しておりますが、このまま年々平均気温が漸次上昇するようであれば、マラリアやデング熱、チクングニア熱等、蚊が媒介する熱帯性感染症の流行地域が日本にまで拡大することが危惧されます。

さらに、米国で大流行したことが記憶に新しいウエストナイルウィルスなども国内への侵入が懸念されておりますが、これらの感染症から市民の健康を守るためには、防疫活動や衛生管理の徹底などの未然防止措置を取ることが重要です。

私共といたしましては、貴協会の皆様方が永年にわたり培ってこられた防疫対策や建築物の衛生管理に関する豊富な知識と経験、高度な技術がこれらの備えになるものと大きな期待を寄せております。今後ともご研鑽を積まれ、快適な生活環境の推進にご尽力いただきますようお願い申し上げます。

本市におきましても、引き続き、直接行政を担う自治体としての責務、さらには関西圏域に貢献する自治体としての責務を果たしていくために、地域主権を展望した大都市制度の拡充強化に加えて「地域から市政を変える」新しい市政改革の推進に力を注いでまいります。

また、地域を再生し豊かに住み続けていくための「地域力の復興」や将来の持続的な大阪の発展のための「未来への投資」を通じて「大都市、そしていちばん住みたいまち」の実現をめざし、力を尽くしてまいりますので、貴協会の皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

新年のごあいさつ

堺市健康福祉局健康部長
木　村　賢　司

新年あけましておめでとうございます。

財団法人大阪防疫協会の皆様方には、健やかに新春を迎えられ、益々ご清栄のことと心からお慶び申し上げます。

また、旧年中は、本市保健衛生行政の推進にご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

我が国では、市民生活における様々なリスク要因の増加に伴い、暮らしの安全・安心に対する意識は日増しに高まってきております。

本市では長年、重篤な救急患者を受け入れる救命救急センターの整備が課題となっておりましたが、救命救急センターと一体となった高度・専門医療を提供する新病院を整備する方針を決定し、平成26年度中の竣工をめざして、現在、市の重要施策として取り組んでいるところです。本市では、この新病院が救急医療の拠点としての役割とともに、災害時医療や感染症医療の分野における地域の中心的役割を担うものと考えております。

また、予防接種事業におきましては、女性の健康増進を図ることを目的に、昨年10月から国に先駆けてワクチンで予防できる唯一のがんと言われている「子宮頸がん」の予防ワクチンにつきまして、中学生を対象にその接種費用の一部助成事業を実施いたしました。

今後とも、市民の安全・安心を確保するため、健康・医療・福祉の分野でも施策の充実に取り組んでまいりますが、貴協会におかれましては、これまで培ってこられた豊富な知識・経験と高度な技術を活用していただき、「健康都市・堺」の実現をめざした本市の取組に、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

東大阪市健康福祉局
健康部長 中　谷　恭　子

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様方には、益々ご清栄のことと心からお慶び申し上げます。旧年中は、本市の保健衛生行政の推進につきまして格段のご理解、ご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、将来都市像である「夢と活力あふれる元気都市・東大阪」の創造をめざし、昨年、今後１０年間のまちづくりの方針を示す後期基本計画を策定しました。

この計画における保健衛生の分野については、「健康で元気に暮らせるまち」「安心して医療が受けられるまち」「生活衛生が行き届いたまち」をテーマに、市民の健康増進、快適な生活環境の充実などの施策を展開し、その実現に向けて取り組んでまいります。

一昨年世界的に大流行した新型インフルエンザにより、感染症予防の基本であるうがい・手洗いの励行、マスクの着用の徹底が図られるなど、かつてなく公衆衛生に対する市民の関心が高まったところです。感染拡大防止として学級閉鎖や休校の措置、医療体制の確保、ワクチンによる予防接種などの対策が講じられたことは皆様の記憶に残っていることと存じます。

今後も、予断なく、強毒性で致死率の高い鳥インフルエンザの監視強化が必要です。

この他にも、気候変動に伴い、マラリアやデング熱の流行域の拡大、結核など再興新興感染症、抗生物質が効かない多剤耐性菌など健康を脅かす問題が山積しています。

「何事もこれで万全というというものはなく」常に、最新の知見や知識の収集に努め、市民の安全・安心を最優先に、被害の未然防止、発生時の拡大防止について迅速かつ的確な対応が図られるよう、健康危機管理体制等を充実してまいります。

貴協会におかれましては、永年にわたり培ってこられた公衆衛生における豊富な知識と経験、高度な技術を遺憾なく発揮され、今後とも本市の保健衛生行政の推進に、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

高槻市保健福祉部長
三　宅　清　道

新年明けましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本市の保健衛生行政の推進に格段のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は愛知県名古屋市において国連生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催され、微生物など遺伝資源の利用と利益配分を定めた「名古屋議定書」及び生態系保全の国際目標となる「愛知ターゲット」が採択されるなど、自然共生社会の実現に一歩前進した年だったといえます。

また、日本の天候は観測史上稀に見る猛暑が続き、熊の餌であるドングリが不作のため熊が市街地に出現し、人や農作物に被害が多数発生したほか、国内各地でキノコが豊作となり、食用キノコと誤って毒キノコを喫食するといった、食中毒事件が多発しました。

このように、日本においても亜熱帯化の進行に伴い、様々な影響がみられるほか、亜熱帯地方で流行しているマラリアやデング熱の日本への侵入が益々危惧されているところです。更に、アメリカ等で流行しているウエストナイル熱ウイルスの日本への侵入に備える必要もございます。

このような状況の下、本市におきましては、一昨年に大流行した新型インフルエンザ発生の教訓を踏まえ、安全・安心の街づくりの一環として健康危機管理体制の更なる整備、充実を図るとともに、関係機関との連携の強化に努めているところです。

貴協会におかれましては、永年培ってこられた防疫や環境衛生対策などに関する豊富な知識と高度の技術を遺憾なく発揮され、本市の保健衛生行政の推進に、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご多幸を心から祈念いたしまして新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

大阪府保健所長会々長
大阪府八尾保健所長
土生川　洋

新年明けましておめでとうございます。

財団法人大阪防疫協会の皆さまにおかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

旧年中は保健所事業の推進に格別のご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は新型インフルエンザの流行が沈静化した矢先、宮崎県で口蹄疫の発生があり、畜産農家や地域経済に大きな打撃を与えました。また、夏には記録的猛暑による熱中症で、多くの方が医療機関に救急搬送されました。世界に目を向けましても、天変地異や感染症の流行などが各地で起こっています。

これらの事象は、人間の力では防ぎようのないものから、適切な対応により、未然防止や被害拡大阻止が可能なものまで様々ですが、経験を通して得られた教訓を、今後に生かしていくことが肝要です。殊に、多くの事象を経験してきた大阪は、教訓を風化させることなく、次代に継承していかなければなりません。

保健所といたしましても、関係機関との連携のもと、地域における健康危機管理対策を担う一機関としての役割を、引き続き果たしてまいりたいと考えているところです。

正月が過ぎればすぐに十日戎です。初詣では一年の無事と平安を祈願しますが、健康危機事象への対応でこの一年保健所が、商売繁盛することのないよう、戎様にはご遠慮願いたいものです。

貴協会の皆さまにおかれましては、今後とも、防疫や環境衛生対策など、公衆衛生の向上に益々活躍されますことを期待申し上げますとともに、保健所に対しましても一層のご支援、ご指導をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と、会員の皆さまのご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

一般財団法人
阪大微生物病研究会
理事長　東　雍

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、当財団のワクチン事業に対し、格別のご理解とご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

一昨年、世界中で流行したブタ由来の新型インフルエンザ（A/H1N1）も、昨年８月、WHO（世界保健機構）によるパンデミック終息宣言がなされ、その後国内においても大きな流行は見られていません。しかし、ここ数年は、成人を中心とした麻疹の大流行や新型インフルエンザへの対策など、感染症やワクチンに関する話題が毎年注目されました。そして、これらを契機にようやく感染症対策におけるワクチンの重要性が国家レベルでも議論されるようになりました。

2009年末には、厚生科学審議会に予防接種部会が発足し、わが国の予防接種制度の抜本的改革に向け検討が続けられています。改革の骨子は定期（公費）接種のあり方、接種後健康被害救済など多岐にわたりますが、その前提としてよりニーズに合致した高品質のワクチンが求められており、新しいワクチンの開発が急務といわれています。

当財団では、これらの要請に応えるべく、新型インフルエンザ発生時などへの迅速対応をめざした細胞培養ワクチン研究用プラント建設や不活化ポリオワクチンをDPTワクチンに組み込んだ四種混合ワクチンの開発に取り組むほか、大阪大学微生物病研究所との共同研究としてマラリアワクチン、卵巣がんワクチンの開発にも協力しています。

また、私ども微研財団は公益法人制度改革により昨年４月より一般財団法人となりました。今後もワクチンの開発、製造および供給だけでなく、市民公開講座やホームページの充実など、啓発活動においても公衆衛生の向上に貢献できますよう、一層努めてまいります。

最後になりましたが、貴協会のますますのご発展と皆様方のご活躍ご健勝を祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。